

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

政策名	物流・産業	25年度事業・施策評価結果			責任者	企画調整室 事業担当課長	
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	コスト				
事務事業名	鍋田ふ頭コンテナターミナル施設改良事業	継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7921 関連事業担当	
目的	対象(誰・何を)	鍋田ふ頭コンテナターミナル荷役機械(ガントリークレーン1~5号機)				事業 期間	平成23~27年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	荷役機械を改良し、延命化(電装品等交換、塗装等)を図ります。					
概要	整備場所:愛知県弥富市富浜(鍋田ふ頭コンテナターミナル) 内容・規模:中国・アジア貨物の重要な物流拠点であり、安全かつ安定的に荷役できるように荷役機械を改良します。老朽化が進んでいる荷役機械5基を無利子貸付金を使用して延命化します。 総事業費:約12億円(うち、港湾管理者無利子貸付金総額約3億円)				根拠 法令等	港湾法55条の9	
26年度の実施予定	鍋田ふ頭第2パースの荷役機械(4・5号機)改良について、無利子貸付の実施に向けた調整を行う予定です。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
					関連 シート		

2 DO(実施)

26年度に実施した 内容・結果	国及び名古屋港埠頭株式会社と無利子貸付の実施に向けた調整を行い、名古屋港埠頭株式会社に対し、無利子貸付を行いました。 名古屋港埠頭株式会社が、無利子貸付金により、荷役機械(4号機)の電装品等の交換及び塗装を行いました。					
コスト	単位	24年度	25年度	26年度	合計(平成23年度~)	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	189,000	247,000	142,000	761,000	平成27年2月に名古屋港埠頭株式会社が特例運営会社となり、貸付割合が変更(国2:港湾管理者2:特別転賃債3:民間資金3⇒4:1:1)したため、平成26年度の事業範囲の見直しを行いました。
人件費	千円	1,513	1,402	1,321	5,788	
合計	千円	190,513	248,402	143,321	766,788	

3 CHECK(検証)

指標名		24年度	25年度	26年度	最終目標	27	指標の説明・目標値の考え方	外部要因	
事業進捗率(%) (進行管理型)	目標	-	-	81.9	100(累計)		事業進捗率は、総事業費を100とした事業費の割合です。		
	実績	31.4	52.2	64.2					
	事業進捗状況(26年度)			○順調・ やや遅れ ・ 遅れ					
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	貸付割合の変更に伴う事業範囲の見直しにより、5号機の電装品製作を見送りましたが、平成27年度には事業完了する予定となっているため、順調に進捗しております。								
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明							
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か? 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	鍋田ふ頭コンテナターミナルは、中国・アジア貨物の重要な物流拠点であり、老朽化した荷役機械を改良し、安定的な荷役環境を維持する必要があります。そのため、港湾管理者が主体となって無利子貸付金の調整を行う必要があります。						
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	○	老朽化した荷役機械を改良し、安定的な荷役環境を維持することは、上位施策である「国際・国内海上輸送機能の強化」に貢献すると考えております。 改良を行った荷役機械については、安定的な荷役環境を提供できていることから、成果が得られていると考えております。						
効率性	最小のコストとなっているか?	○	利用者のニーズや補修・点検等のランニングコストも踏まえた改良を実施しています。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	27年度以降の方向性			判断理由
		成果	コスト	
	継続	維持	維持	・安全かつ安定的にコンテナ荷役が行えるよう、関係者と調整を図りながら計画的に荷役機械の改良を実施していく必要があるため。
課題				
平成27年度の事業完了に向け、利用者調整をしながら着実に進捗を図っていく必要があります。				引き続き、無利子貸付の調整を行っていきます。